

人々の笑顔があふれる「地域づくり」を応援する

# 地域づくりinほくりく

2015 AUTUMN



五合庵

絵 土田 和男

大河津分水の右岸下流に五合庵がある。良寛(1758~1831 現:新潟県三島郡出雲崎町生まれ)が修行の後、晩年20年ほど住まいにしたところである。

## ❖ 随想

2

早川 典生(NPO法人信濃川大河津資料館友の会理事長)  
大河津分水  
—人が夢を見、人が造り、人が守る—

## ❖ 特別企画

4

越後平野発展の礎  
「大河津分水路」の改修  
北陸地方整備局 信濃川河川事務所

## ❖ 特集「地域とともに」

10

長野市善光寺を中心とした  
ユニバーサルな観光マップアプリの開発  
NPO法人ヒューマンネットながの(長野県長野市)

## ❖ シリーズ「次世代に向けた地域の魅力づくり」

16

「数納邸」から行ってみたいくなる  
八尾を世界に発信  
八尾スローアートショー2015実行委員会(富山県富山市)

## ❖ 北陸再発見

18

100%、西会津産「ベジメルバーガー」  
(福島県西会津町)

## ❖ 伝言板

20

## 大河津分水—人が夢を見、人が造り、人が守る—

はやかわ のりお  
早川 典生

NPO 法人信濃川大河津資料館友の会理事長

東京大学工学部土木工学科卒業  
NPO 法人 水環境技術研究会理事長  
長岡技術科学大学名誉教授  
H12 年度～信濃川中流圏域河川整備協議会会長  
H18 年度～信濃川下流(山地部)圏域河川整備協議会会長



### 1. はじめに

信濃川の洪水を日本海に放流する延長 10km の人工水路、大河津分水路である。この分水路には主要構造物として、新潟方面への利水を確保する為の洗堰、分水路への流量を制御する可動堰があり、併せて大河津分水と呼ぶ(図1)。

この大河津分水により洪水の危険性を大きく軽減し、土地の有効利用を進めることができた。すなわち人々に与えた恵みは、計り知れないものがある。

今から 20 年程前、公共事業に対する世間の目には冷たいものがあつた。しかし大河津分水に来て、滔々たる流れを見、この土地の人々と話をしていると、“ここは違う”という感じがするのである。その“違い”は何か、そこに“大事な、価値ある公共事業とは何か”、の答えが埋められていないだろうか。その観点からここに、大河津分水とは何かを考え直してみるのである。

### 2. 人々の抱いた永い間の夢

信濃川の大河津分水より下流に広がる越後平野は、明治以前には多数の“潟”があり、一面低湿地の状態であつた。この低湿地に信濃川、阿賀野川が流れこみ、洪水常襲地帯となつていた。記録によれば江戸時代には大洪水は 86 回あつたという。

この洪水危険性を軽減すべく、最初に大河津分水建造を江戸幕府に請願したのは、寺泊の有力商人 本間屋数右衛門で 1730 年頃だったという。以後、大河津分水を造ろうという治水運動家はこの地域に次々と現れた。

しかしながらこの請願は、当時の江戸幕府には荷が重すぎて一度も取り上げられなかった。それでも運動は続けられ、次第に大きなうねりとなっていったのである。

そして、大政奉還の混乱の中、当時の治水運動家達は建白書を携えて京都へ上り、時の権力者に直々に窮状を訴えたところ、その訴えが権力者側の意に通じ、大河津分水開削を始めるべしという越後府知事に宛てた親書を手に入れる。これがきっかけとなり、1870(明治3)年、人々が 150 年近くも夢見ていた大河津分水開削の工事が始まつたのである。



図1：越後平野を守る大河津分水

### 3. 難行した大工事

このようにして、大河津分水路第一期工事は開始されたのだが、当時の大型土木工事の経験不足、開削した斜面の地すべり、不足する資金繰り、また工事に反対の声、等のために難渋したが、それでも分水路の川筋はつけたところで、5年で中断されるのである。

この中断期間は34年間も続き、その間色々な工事、論争が繰り広げられたが、1896（明治29）年の大洪水、「横田切れ」、を経て、1907（明治42）年に、第二期工事が開始された。

この工事は15年続き、1922（大正11）年遂に大河津分水路に通水するに至る。これで一旦完成したのだが、その5年後大河津分水路への流量を制御する自在堰が陥没し、使用不可能となった。これのやり直し工事は補修工事とよばれ、4年間の短期間で1931（昭和6）年完成され、以降大河津分水は大きなトラブルはなく、洗堰が2000年に改築通水されるまで、およそ70年間その姿のまま使われてきた。この第一期工から補修工事の終わるまでの61年間を、大河津分水の建設期間と呼ぶことができよう。間に30年にも及ぶ中断期間があったが、この期間も色々な動きがあり広い意味で建設期間の一部であったとしてよい。我が国の建設事業で、かくも長い建設期間を要したものはあったであろうか。

### 4. いついつまでも大事にしよう

大河津分水は1931年補修工事が終わった時から60年を過ぎると、構造物の老朽化が目立ち始めてきた。そこで、洗堰が改築された（2000年通水）。次に可動堰を改築し2011年通水した。

さらに2015年1月、国土交通省は大河津分水路大改修計画を発表した。これはそもそも大河津分水路が自然の河川と異なり、信濃

川本流からの分派点から分水路河口に至るまで次第に川幅を減じていること、そのために様々な問題が発生していることを解消するためである。すなわち、大河津分水路の川幅を下流側で現状より広げるのである。

この計画では2015年度から2032年度まで18年かかる大工事である（具体的には本号別稿「特別企画」参照）。大河津分水周辺の住民にとっては積年の課題が解消される朗報である。

### 5. 価値ある、大事な公共事業とは何かを考える

このように大河津分水を考えると、価値のある公共工事としての条件が浮かび上がってくる。

一つ、沢山の人々に喜ばれることである。これは当然とも言えるが、大河津分水が江戸時代の昔から沢山の人々に熱望され、工事が始まると沢山の人々が汗を流し、そして沢山の人々が完成した大河津分水を大事に思い、その結果今日沢山の人々が望む大改修への道筋がつけられたのである。

二つ、ここで述べたように、大河津分水では、最初の着想から工事着手までおよそ150年、工事開始から本格的終了の補修工事竣工まで61年、そこから洗堰の改修まで70年、そして今、新たな守りと大改修にその後の32年、なんと、310年以上の年月をかけて人々は大河津分水に熱い思いを寄せ、手をかけているのだ。

沢山の人々が長い長い年月を重ねて望み、造り、守り、そして発展させようと努力しているのがこの大河津分水であり、このことが“大事な、価値ある公共工事”の満たすべき要件と言えるのではないだろうか。

# 越後平野発展の礎「大河津分水路」の改修

北陸地方整備局 信濃川河川事務所

## 1. はじめに

大河津分水路とは、新潟県のほぼ中央部で信濃川が日本海に最も近づく地点の大川津から寺泊海岸までの全長約 10 km を繋いだ人工河川です。信濃川の洪水を日本海へ流し、日本有数の穀倉地帯である越後平野を水害から守る重要な役割を担い、越後平野発展の礎をなしています。



図1 位置図

## 2. 大河津分水路の恩恵

### (1) 大穀倉地帯へ発展

大河津分水路通水以前の越後平野は、芦沼が広がる泥深い田んぼが多く、腰まで水に浸かりながらの稲栽培が行われ、収穫された米の質も悪かったため「とりまたぎ米（鳥もまたいで食べない）」と言われていました。大河津分水路の通水によって洪水被害は激減し、信濃川下流部の水位低下による排水性の向上、土地改良の進展も伴って、旧西蒲原郡の水稻

生産高は大河津分水路通水前の約 2 倍になり、信濃川沿いの耕地は全国有数の美田に生まれ変わりました。

(湿田)



(現在)



写真提供  
亀田郷土地改良区  
撮影：本間喜八氏

写真1 湿田と乾田の稲刈りの状況比較

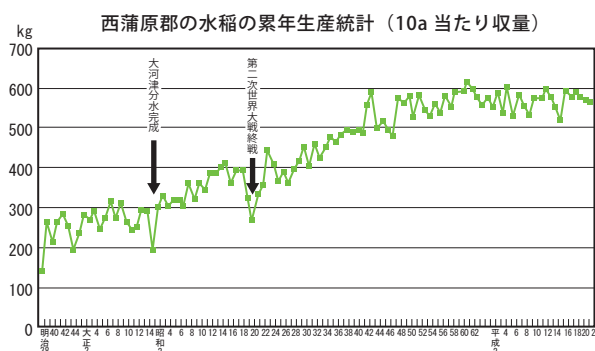


図2 水稻収穫量の推移

### (2) 交通網の発達

大河津分水路通水以前に敷設された JR 信越線は、越後平野を避けるように東側の地盤が高い山沿いに建設されました。また、旧国道 8 号も洪水の影響が少ない中ノ口川の堤防上を通っていました。

大河津分水路通水後は越後平野の洪水被害は激減し、低平地の排水性が向上したことから、上越新幹線や北陸自動車道等の交通網の整備が進み、首都圏との結びつきが深まりました。



写真2 新潟市街地  
(信濃川と上越新幹線、国道8号、北陸自動車道)

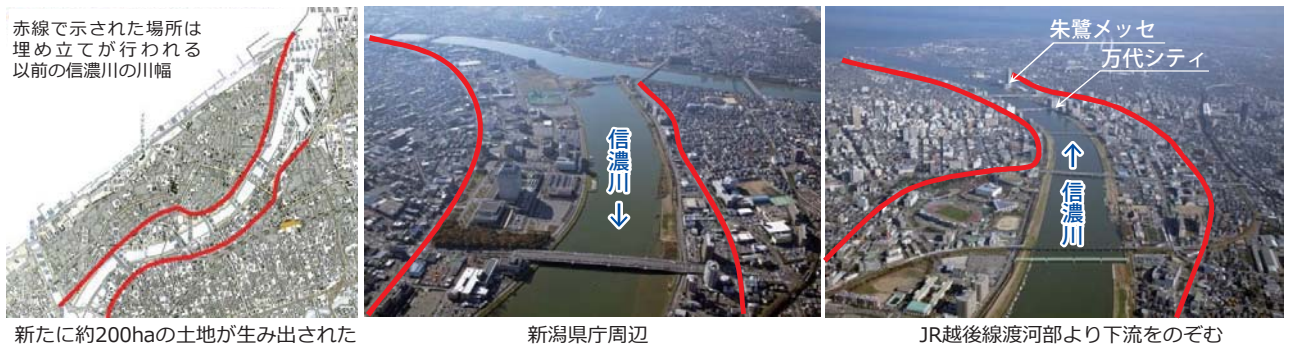
### (3) 土地利用の変化

大河津分水路の完成により、上流域の洪水を直接日本海に流せるようになったため、信濃川下流域の治水安全度は飛躍的に向上しました。かつて川の中だった場所は、宅地や農地等として利用することが出来るようになりました。特に、信濃川の最下流部に位置する新潟市では昭和2年から埋め立てを開始し、川幅は約800mから約300mに縮小されました。

この結果、対岸との行き来が容易となったことで東西新潟が一つにまとまり、本州日本海側唯一の政令指定都市にまで発展することとなりました。



図3 大河津分水路と越後平野の主要交通網



新たに約200haの土地が生み出された

新潟県庁周辺

JR越後線渡河部より下流をのぞむ

写真3 信濃川最下流部に位置する新潟市

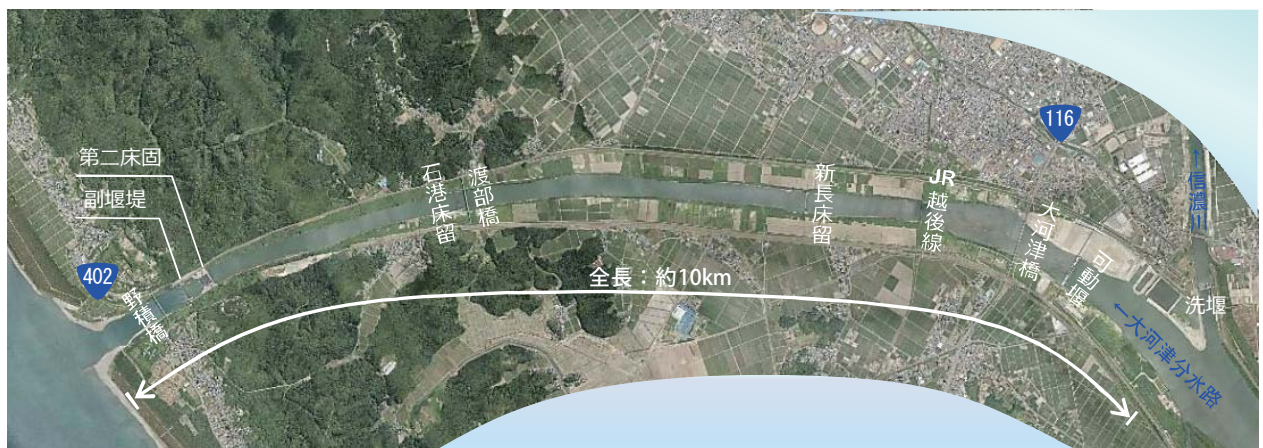


図4 大河津分水路全体図

### 3. 平成の大事業「大河津分水路の改修」

#### (1) 平成 23 年 7 月洪水

昭和 6 年の大河津分水路完成後、幾度もの洪水から越後平野を水害から守ってきました。

しかし、近年立て続けに大規模な洪水が発生しており、中でも平成 23 年 7 月洪水は大河津分水路の渡部観測所において観測史上最大の流量（約 8,300 m<sup>3</sup>/s）を記録し、大河津分水路分派点上流の水位が計画高水位を超過する危険な状況となりました。

また、仮に大河津分水路の右岸堤防が破堤した場合には、はん濫水が新潟市街地まで及ぶ甚大な被害の発生が想定されます。

洗堰・新可動堰の改築に続き、大河津分水路の最大の課題である洪水処理能力不足や河床洗掘等の対策が急務となっています。

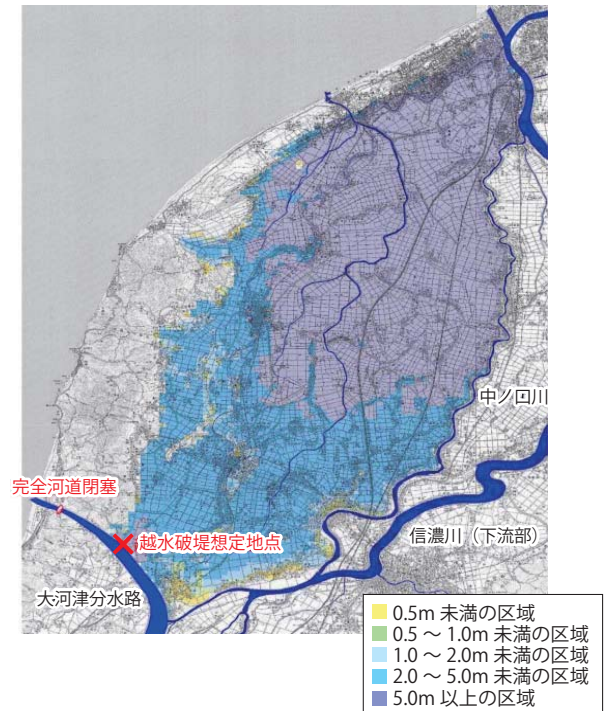


図 5 大河津分水路河口部で河道閉塞が生じ右岸堤防が破堤した場合の想定はん濫区域

#### 平成 23 年 7 月洪水



写真 4 平成 23 年 7 月洪水（第二床固）の状況



写真 5 平成 23 年 7 月洪水（第二床固）の状況



写真 6 平成 23 年 7 月洪水（大河津水分派点付近）の状況



平成14年 洗堰の完成



平成26年 新可動堰の完成

写真7 完成した洗堰と新可動堰

## (2) 大河津分水路の改修

大河津分水路の課題である洪水処理能力不足や河床洗掘等の対策として、河口山地部掘削、低水路拡幅、第二床固の改築を進めています。

河口山地部掘削では、約1,070万 $m^3$ の土砂掘削が想定されています。

事業概要
事業箇所：新潟県長岡市、燕市
全体事業費：1,200億円
事業期間：平成27年度～平成44年度



図6 「大河津分水路の改修」全体計画図

## 山地部掘削 横断面図 (大河津分水路7.4k)

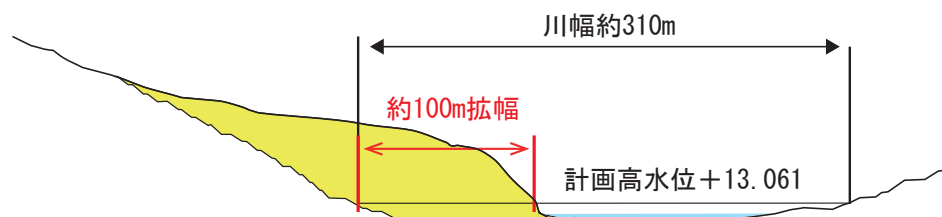


図7 山地部掘削のイメージ図 (横断面図)

### (3) 改修の概要

#### ■ 左岸の山地部掘削

山地部の地層は、右岸から左岸に向かって傾斜しているため、右岸側は流れ盤という規模の大きな地すべりが発生しやすい地層となっています。このため、右岸を掘削した場合は大規模な地すべり対策が必要となります。

一方、左岸側は地すべりが発生しにくい地層のため、施工期間や経済性の観点から左岸側を掘削の方が有利となります。

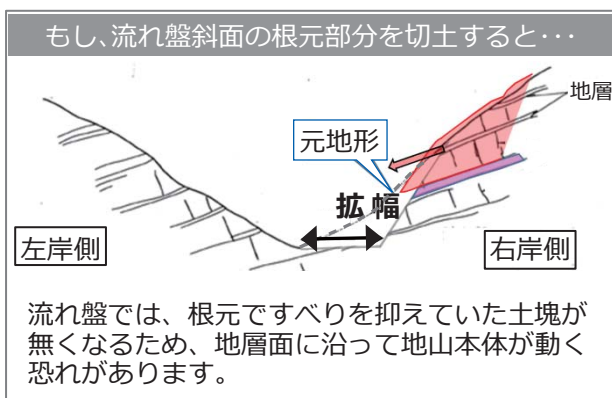


図8 山地部掘削（流れ盤）概念図

#### ■ 新第二床固

大河津分水路は、河口部に近づくほど河床勾配が急になり、流速が早くなる形状となっているため、第二床固、副堰堤、バップルピアを設置するなど流速を遅くし河床低下を防ぐ対策を講じてきました。もし、大河津分水路の河床低下が進行した場合、大正期に発生したような大規模地すべりが再び発生する可能性があります。

拡幅後も安定した河床を維持するために、現在の副堰堤の直下流側に現在の第二床固と同じ高さで新第二床固を建設します。

#### ■ 大河津分水路の改修による段階的な効果

新第二床固、河口までの拡幅が13年目（平成39年度）に完了する予定であり、この段階で、現在の第二床固付近で戦後最大規模の

洪水と同規模の  $9,800 \text{ m}^3/\text{s}$  が流れた場合、約1.8mの水位低減効果が見込まれます。

また、平成23年7月洪水において計画高水位を超過した大河津分水路分派点上流付近では、平成23年7月洪水が再来した場合は計画高水位以下で流下させることができますが、戦後最大規模の洪水の場合は水位を計画高水位以下にすることはできません。

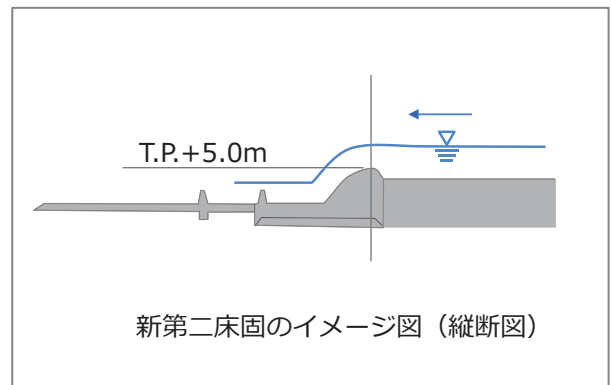


図9 新第二床固イメージ図

その後、新第二床固より上流の山地掘削及び低水路拡幅を実施することにより、戦後最大規模の洪水が流れた場合でも、本川14k付近（蔵王橋付近）より下流区間で安全に洪水を流下させることができるようになります。

## 4. 大河津分水路の改修がもたらす効果

### (1) 水位低下効果

戦後最大規模の洪水が流下した場合、蔵王橋付近より下流において水位が計画高水位以下となり、信濃川本川の堤防の決壊等による洪水被害の危険度が低減します。

また、洪水時の本川水位が低下するため、黒川等の支川の排水も改善され、内水被害の軽減等の効果が発現します。



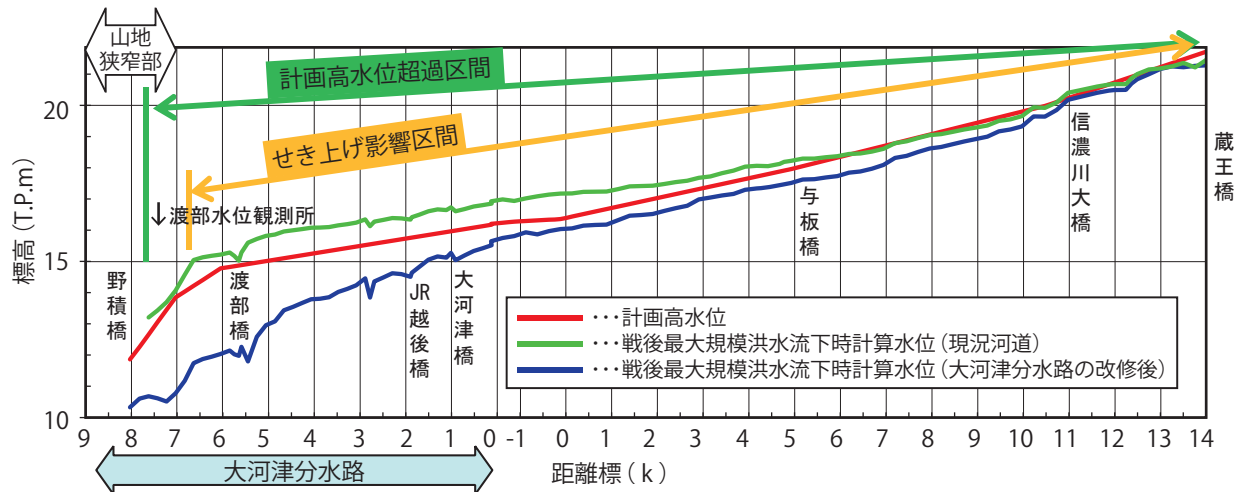
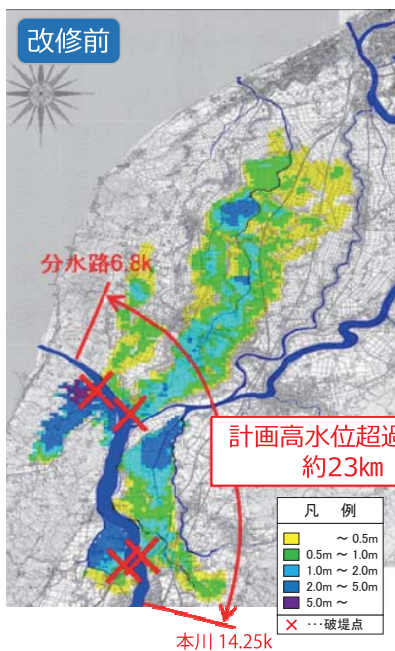


図10 戦後最大規模洪水流下時の水位縦断面図

(2) 浸水被害軽減効果

戦後最大規模の洪水に対して、被害の解消が図られることになります。



項目	改修前	改修後
床上浸水	6,222戸	0戸
床下浸水	5,569戸	0戸
浸水面積	217km <sup>2</sup>	0km <sup>2</sup>
被害総額	4,616億円	0円
浸水区域内人口	52,718人	0人
最大孤立者数 (避難率40%)	13,121人	0人
電力の停止による影響人口	18,141人	0人

※浸水被害軽減効果は、大河津分水路の改修による計画高水位以下への水位低減効果が発現する本川14.25k付近より下流区間を対象に算定している。

図11 大河津分水路の改修実施前後の浸水被害軽減効果

(3) 流域全体の治水安全度向上

大河津分水路の洪水処理能力の向上は、信濃川下流域に対する治水安全度の向上はもちろんのこと、信濃川中流域でも大河津分水路の洪水処理能力の向上に合わせて河川改修を推進することが可能となり、戦後最大規模の洪水に対して、浸水被害の防止又は軽減を図ることが可能となります。

また、新潟県内の河川改修の進捗に合わせて、上流の長野県区域の河川改修を推進することが可能となり、信濃川流域全体の治水安全度が向上します。

# 特集「地域とともに」

## 第19回「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業

(一社)北陸地域づくり協会は、(社)北陸建設弘済会時代の平成7年から、公益事業として「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業制度を創設し、地域活性化に成果が期待できる事業を募集・採択し支援してきました。

夏号に引き続き、平成26年度事業の中から1課題を紹介します。

### 「長野市善光寺を中心としたユニバーサルな観光マップアプリの開発」

川崎 昭仁 | NPO法人ヒューマンネットながの  
藤澤 義範 | 長野工業高等専門学校

#### 1. はじめに

長野県における観光産業は宿泊業や飲食業、鉄道業、運輸業などの幅広い分野にわたる。

平成23年の長野県の観光産業の規模<sup>[1]</sup>は3,063億円で農業産出額2,243億円の約1.4倍となっており、電機・情報・電子、機械などの県内主要業種と比較しても重要な位置を占めていることが分かる。

また、平成23年におけるビジネス目的等を含む延べ宿泊数は47都道府県中第5位、観光旅行に限定した宿泊観光入込客数では第2位となっており<sup>[2]</sup>、全国的にみて有数の観光県となっていることが分かる。長野県の観光旅行者数は平成3年をピークに減少傾向にあり、観光消費額も長野オリンピック開催の平成10年をピークに減少している。その反面、数えて7年毎に開催される善光寺御開帳時には観光客数が開催毎に増加しており、平成27年の御開帳時は北陸新幹線長野・金沢間の開業と重なり前回の御開帳より34万人多い過去最多となる707万人が善光寺を訪れた。

その一方で、高齢者や障害者等のための観光手段は十分には構築されておらず、バリアフリー情報を記載している観光マップは少ない。

北陸甲信越地方	ホームページ	お問い合わせ先
新潟県	ホームページ	にいがたバリアフリーガイドマップ
富山県	ホームページ	とやまバリアフリーマップ
石川県	ホームページ	バリアフリーマップいしかわ
福井県	ホームページ	バリアフリー情報マップ「あそびあそびマップ」
山梨県	ホームページ	観光マップやまなし
長野県	ホームページ	-

図1：バリアフリーマップ 一覧

図1は、都道府県・指定都市バリアフリーマップの一覧<sup>[3]</sup>である。これによると、長野県は積極的にバリアフリーマップを製作してお

らず、ほかの県と比べて遅れを取っていることが分かる。つまり、何らかの配慮や支援を必要とする人は観光を諦めてしまい、観光を楽しむことができないのが現状ではないかと考える。

そこで本プロジェクトでは、今まで観光を諦めていた人の助けとなるユニバーサルデザイン化された観光マップを開発することを目指す。このような活動は数十年前から行われており、集められた情報は冊子などの紙媒体で発信されていた。しかし、近年の目覚ましい技術の進歩とインターネットの普及もあり、本プロジェクトで開発する観光マップはHTMLやCSS、JavaScriptなどの技術を用いたwebアプリケーションとして開発する。

また、バリアフリー情報の収集においては、旧来からの手法を取り入れて人手による現地調査を実施する。現地調査による精度の高い情報を盛り込んだwebアプリケーションは、PCやタブレット端末、スマートフォンなどの様々な端末で閲覧可能なフレキシブルなものになると考えている。

#### 2. アプリケーション

本章ではアプリケーションの概要や内部構成、動作概要などについて述べる。

##### 2.1 概要

本アプリケーションは、webブラウザ上で動作するwebアプリケーションである。

従って、PCやタブレット端末、スマートフォンに内蔵されているwebブラウザさえあれば時間や場所を選ばず閲覧できる。本アプリケー

ションは、図2のようにアプリケーションからのリクエストをデータベースサーバが受け取り必要な情報を返すというシンプルなサーバクライアント方式を採用している。

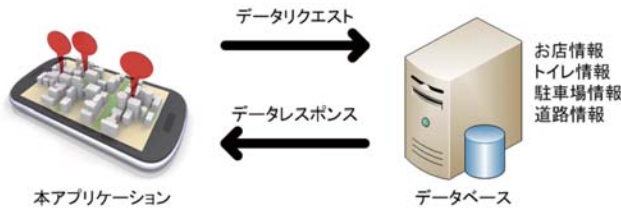


図2：本アプリケーションの概要

本アプリケーションは、次のような利用のシナリオを想定している。

- ・旅行前
  - 使用者自身がその場所に行けるかを確認
  - 介助者がいれば行けるかを確認
  - 旅行プランを立てるのに活用
- ・旅行中
  - 現在地追従によるナビゲーション
  - 近所の多目的トイレなどを検索

## 2.2 内部構成

サーバ側のファイルの構成は図3のようになっており、トップのindex.htmlファイルと同じレベルに幾つかのフォルダがあり、その内部に詳細な情報を持つファイルやプログラムが格納される階層構造になっている。

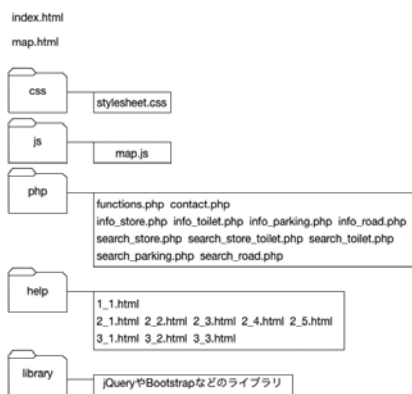


図3：ファイル構成

サーバには、webサーバ機能の他に大量のデータを管理するためのデータベースサーバ機能も備えている。

データベースはカテゴリズされた複数の表を任意のキーワードで関係を持たせている。図4は、それぞれの表の関係性示したものである。

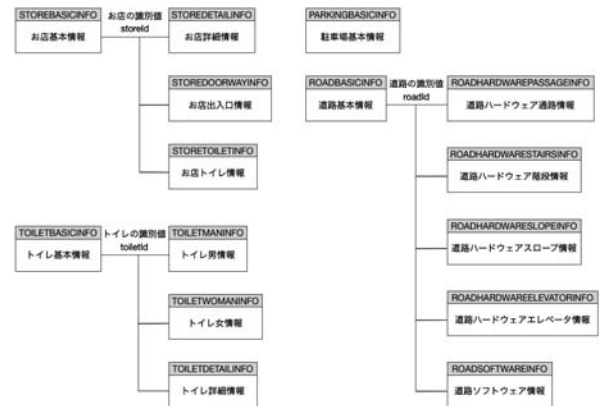


図4：データベース内の構造

## 2.3 動作概要

現在本アプリケーションは、下記のURLよりアクセス可能になっている。

<http://unip.info>

上記URLよりアクセスすると、図5のようなトップページが表示される。このトップページは、左下の日本地図からその右の長野県の地図、更にその右の長野市の地図というように我々がどのエリアの情報を公開しているかがわかるようになってい



図5：サイトのトップページ

加えて、右側の地図が長野駅から善光寺までのアクセスを示す道路マップとなっている。

図5の「入り口」ボタンを押してアプリのメインページに入る。図6がアプリのメインページである。



図6：アプリケーションのメインページ

メインページでは下記のことが可能である。

- ・地図色の変更、渋滞状況、現在地の表示
- ・経由地、交通手段を選択しての経路検索
- ・店名や業種などによるお店検索
- ・多目的トイレを含めたトイレ検索
- ・障害者スペースを含めた駐車場検索
- ・道路状況の把握

図7は、地図色を変更したときの様子である。夜間など周囲が暗いときに画面の光で目に負担をかけないように実装した機能である。



図7：地図色の変更

渋滞状況の様子を図8に示す。地図内の渋滞状況ボタンを押すことで、渋滞状況を表示することができる。緑色は通常で通行可能、黄色はやや渋滞、赤色は渋滞を意味しており、赤くなるほど渋滞が激しいことを示している。



図8：渋滞状況の表示

現在地表示の様子を図9に示す。地図内の現在地ボタンを押すことで現在地を表示することができる。現在地は緑色のマークで示し、誤差は周辺の円で示している。



図9：現在地の表示

図10に経路を検索した結果の様子を示す。



図10：経路の検索結果

図10の場合、長野駅から善光寺まで徒歩で向かうことを想定している。経由地点などを追加することも可能となっている。経路検索には標高を表示する機能もあり、現在地から目的地までどのような交通手段で向かえば良いのかを考えるヒントも与えている。

図11はお店を検索した例である。業種としてお土産屋さんを選択している。静止画像では分からないが、チェックボックスにチェックを入れると即座にピンがドロップするようになっており、非常にレスポンスが速い仕組みを取り入れている。ドロップしたピンをクリックすることで、お店の外観の写真やバリアフリー情報を示すアイコン、連絡先などの一般的な情報を閲覧することができる。

アイコンだけではわからない場合は、より詳細な情報を見ることができる。



図11：お店検索の例



図12：詳細ページの例

図 12 は詳細ページの例である。営業時間や定休日、トイレの様子などを見ることができる。

本アプリケーションにおいて、どのタブを選択しても必ず、多目的トイレや駐車場情報を検索できる。これは障害を持つ方にとって必須とも言える検索項目のためこのような仕様にした。図 13 のように多目的トイレにチェックを入れると即座に多目的トイレの情報が得られる。駐車場についても同様で、図 14 のようにピンがドロップされる。もちろん、外観や内部の様子、出入口の様子などの詳細情報もわかる。



図 13：多目的トイレの検索例



図 14：駐車場の検索例

本アプリケーションの特徴の一つに道路状態の確認がある。画面上の道路情報にチェックを入れることで善光寺周辺の道路の状態を確認することができる。

図 15 は善光寺周辺道路状態を検索した様子である。写真などが無い場合もあるが、歩道の様子や歩道と車道との段差の様子、交差点の様子などを知ることができる。これらの情報を提供することで、利用者は自分自身で通行できるか否かを確認することができる。



図 15：道路情報の検索

本アプリケーションを 10 代～ 50 代の幅広い年齢層の方に使っていただき、下記のような感想や意見を頂いた。

- 地図を見ながらトイレなどを検索でき便利
- 現在地表示することができ観光に役立った
- スマートフォンで閲覧しても使えた
- ストリートビューが便利だった
- もっと自由に経路探索がしたい
- 英語などの外国語に対応して欲しい

### 3. 現地調査

現地調査は主に、平成 26 年 5 月 29 日と 8 月 6 日、9 月 25 日に実施した。これらの調査には、プロジェクトメンバーの他に地元小学生の 1 クラスの生徒も参加した。他にも特別支援学校の生徒と保護者、高校生ボランティアが参加した調査もあった。

現地調査は、実施前にそれぞれの商店にアンケートを実施し、それに基づいて行っている。もちろん、アンケートを実施していない商店であっても快く調査に協力してくれる商店も多数あった。

調査は、図 16 のような調査項目にもとづいて行った。

善光寺ユニバーサル観光マップアプリ  
調査のポイント  
信州大学教育学部附属養正小学校

【 】班 店名                     

店 種

(1) 出入口の寸法 (幅)                      c.m. (m.)

(2) 出入口の形状                      形状

(3) 出入口の段差 (有・無)                      c.m.

(4) 通路の幅                      c.m. (m.)

トイレ (各付トイレ)

(1) 洋式か和式か (洋式 or 和式)

(2) 出入口の向き ※図に書き込む

(3) 出入口の形状                      形状

(4) 出入口の寸法 (幅)                      c.m. (m.)

(5) 出入口の段差 (有・無) ※図に書き込む

(6) 手すりの有無 (有・無) ※図に書き込む

(7) トイレ全体の寸法 (縦・横)

縦:                      c.m. (m.) 横:                      c.m. (m.)

図 16：現地調査の様式

図17は現地調査の様子である。調査前にミーティングを行い、小学生とスロープの斜度計測などを行った。



図17：調査の様子

図18のように小学校でも調査の事前準備やこのアプリのコンセプトや使い方などの勉強会を実施した。



図18：学校での勉強会の様子

#### 4. 報道・宣伝活動

テレビの取材および地方紙に本プロジェクトの活動が紹介された(図19～23)。



図19：テレビ信州「報道ゲンパ」(2013年11月19日)



図20：長野市民新聞(2014年6月3日第2面)



図21：週刊長野(2014年12月20日第6面)



図 22：長野市民新聞  
(2015年3月12日第15面)



図 23：信濃毎日新聞  
(2015年3月12日第30面)

## 5. 新たな調査活動

本プロジェクトは、平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月まで 北陸地域づくり協会<sup>[4]</sup>の「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業の助成金を使って活動してきた。助成期間終了後の平成 27 年 4 月以降の活動について紹介する。

4 月～6 月まで月に 1 回のペースでミーティングを行い、今後の活動方針と調査エリアについて話し合った。

調査エリアについては、新しくなった長野駅やその周辺の現地調査を行うことになり、6 月 15 日と 7 月 31 日に現地調査を行った。

昨年度までの調査活動とは大きく異なる点は、小学生の存在である。当時 6 年生であった小学生は中学生になり、活動に参加することが難しくなってしまった。また、担任の先生も転勤となり、本プロジェクトから離れてしまった。

しかし、調査には新たな団体やボランティアの方も参加し、徐々に活動の輪が大きくなっていると感じた。

## 6. まとめ

本プロジェクトでは、ユニバーサルな情報を提供する web アプリケーションの開発を行った。さらに、ユニバーサル情報を収集するための現地調査を介して多くの人々に関わってもらい、

人と人の繋がりを広めることができた。長野県には内閣府のホームページで紹介できるバリアフリーマップがない。我々のこのような活動が県や市町村を動かしより大きな活動となることを願う。

障害のある人もない人も共に安心して暮らせる街づくりやそれに関する情報の提供など、今後行わなければならないさまざまな問題も今回のプロジェクトを通じて発見することができた。本プロジェクトは多くの人の協力で活動を行うことができた。これが完成ではなく、ここからがスタートであると考えている。

今後は、ユニバーサル情報の更新の仕組みづくりと継続的に運用できるように県や市に働きかける予定である。

## 謝辞

本プロジェクトに協力してくれた信州大学教育学部付属長野小学校の竹内良之先生、および竹内先生のクラスの児童の皆さん、エンパワーメントセンターまい・すてっぷの方々、長野市商店会の方々、他関係して下さった多くの方々に深く感謝申し上げます。さらに、本プロジェクトを実施するにあたり「北陸地域の活性化」に関する研究助成金を使用させていただきました。ここに深くお礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 長野県観光の現状と課題：  
<https://www.pref.nagano.lg.jp/gyokaku/kensei/soshiki/soshiki/gaikaku/documents/120723-s3-k.pdf>
- [2] 第 2 章長野県観光の現状：  
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/shisaku/shinko/documents/keikakusho120.pdf>
- [3] 都道府県・指定都市バリアフリーマップ等ホームページ一覧 - 内閣府：  
<http://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/link/bfmapken.html>
- [4] 一般社団法人 北陸地域づくり協会：  
<http://www2.hokurikutei.or.jp/>

## シリーズ「次世代に向けた地域の魅力づくり」

# 「数納邸」から行ってみたいくなる八尾を世界に発信

八尾スローアートショー 2015 実行委員会 (富山県富山市)

5年ぶりに再出発した「八尾スローアートショー 2015 実行委員会」会長の今里 道真さん(観音寺住職)、友咲 貴代美さん(富山県がうん天蚕の会 会長)、事務局長の窪野 達章さん(八尾総合行政センター 総務振興課)からお話を伺った。



アートプロジェクトの拠点「数納邸」



紙バンドのワークショップ  
(コミュニティカフェ&まちなか保健室)



天蚕ワークショップ



「格子戸とスローアート展」  
おわら風の盆の期間中、夜はライトアップされ多くの観光客を魅了した。



「天蚕の妖精」をイメージしたウエディングドレス。現在、友咲さん以外の後継者が育てていないため年間生産量のほぼ全て、8,000個が使われている。

### ◆八尾よいとこ 蚕の都

「おわら風の盆」で知られる八尾町は、飛騨山地と富山平野が接する交通の要衝で、古くから多くの人やモノが行き交う商業の町として栄えてきた。江戸時代から戦前までは養蚕業で栄え、「蚕都」と呼ばれていた。中でも質の高い蚕種(カイコの卵)を生産し、国内外に輸出していた。

「数納邸」は、八尾町最大の商店街、上新町通りにある。富山の売薬とともに発展した八尾和紙を販売し、2階に蚕を養っていた「数納屋」の土蔵造りの商家で、富山市合併時に市に寄贈された。しかし商店街は、活性化事業を継続させるために必要な人的余裕がなく、管理は市に任されたままになっていた。

### ◆スローアートプロジェクト

八尾町には、2004年から2010年まで、「八尾スローアートショー」という、地元住民と都会の芸術家がアートを通して交流し、まちを再発見、再認識し、まちの新たな価値を創造してこうというプロジェクトがあった。廃校、旧校舎となった学校で、アートショー、ワークショップが開催され子どもたち、住民の反響も良かつ

たが、拠点となる校舎が解体され、プロジェクトは休止状態となっていた。

使われなくなった学校に、人を引きつける価値があることを学んだ窪野さんは、「数納邸」を拠点にまちなかを活性化したいと考え、休止後も、『野の花と苔玉と絵画展』を開催していた今里さんに相談した。

「東日本大震災復興支援のチャリティーアート展に参加し、自分がこの八尾にできることは何かを改めて考えるようになった」という今里さんは、「展示するだけでなく、都会の人と山を歩き、山野草群落の保全について理解してもらえるようなスローアートツーリズムやりたい、高齢者や体の不自由な人も元気に暮らせるまちにしたい」と思うようになっていた。「数納邸」を高齢者が気軽に立ち寄れるコミュニティ空間にしようと提案した。

次に、天蚕の飼育技術を引き継いで「富山県がうん天蚕の会」を立ち上げ、自ら生産するだけでなく、障害者施設に勤務しながら天蚕技術の指導と、孤軍奮闘している友咲さんに、「数納邸」に展示し、八尾の伝統アートを知ってもらおうと声をかけた。





今里会長（右）と友咲さん

「継承者が私一人、宿命だと覚悟を決め、毎年、こつこつと開墾と植樹を繰り返し、生産量を増やし製品化したいと7年間やってきた。技術は向上したが、資金と人が集まらず事業化できずにいる。熱意だけでは前に進めない。天蚕アート展などを開いて次につながる糸口をみつきたい」と賛同してくれた。3人が中心となり、今里さんを会長に「数納邸」を活動拠点とし、地域に住んでいる会員、新たにY・Yネット\*ふるさと創造会議、Y・Yネットソーシャルファーム推進協議会に働きかけ実行委員会が再結成された。

\* 八尾地域と山田地域の社会福祉グループが連携して参加

### ◆コミュニティカフェ「数納邸」

今年度は、「数納邸」の使い方を考えようと「コミュニティカフェ&まちなか保健室」を開き、午前中、健康体操講座を受講し、カフェで昼食を取り、午後は各種ワークショップを楽しむスケジュールで、6～8月に5回行った。好評で10月、11月にも開催されることになっている。

「高齢者がまちへ出て人に会い活動すれば、人もまちもどんどん元気になる。まず、毎日、数納邸を開いて、ここに来れば必ず誰かがいて話ができるという場所にしたい」という今里会長の言葉をつなぐように、友咲さんが「薬膳カフェを絶対に実現したい！それを目当てに地元の人だけでなく観光客も来て、天蚕を知ってもらおうきっかけになるかもしれない」と話しが弾む。

「天蚕のウェディングドレス」は、展示前から製作過程がテレビのドキュメンタリー番組として放映され、「格子戸アート展」が地方紙

に掲載され話題になった。これまで地元の人に馴染みがなかった数納邸が、「天蚕のドレスが飾られている場所」と認知されるようになってきた。

### ◆法人化を視野にステップアップ

この反響を次のステップにどうつなげるか。限られた生産量の中で何をつくるか。またその資金をどう捻出するか。今後の活動を継続する上で課題になってくる。行政マンの窪野さんは、これまでいくつものまちづくり事業にかかわり、プロジェクトで出された計画の実現に協力してきた。

「補助金や助成金は、目標を明確にして実行し、確実に次のステージに進む際には効果がある。独り立ちできるまで、その事業展開にふさわしい資金を探し、必要であれば地域外の組織との連携もコーディネートしてきた。この会も3年を目処に法人化できれば」と仕掛けを考えている。



窪野さん

来年5月、伊勢志摩サミット関係閣僚会合、環境大臣会合が富山市で開催される。この機会に関係者に八尾に来て天蚕を見てもらえるようモニターツアーの候補地を目指し準備を進めている。将来的には、バックグラウンドとなる八尾の森を歩く環境ツーリズムで海外から観光客を呼べる事業につなげたいと検討している。

「事業を定着させるには最後は人と人のつながりが鍵になる。私が会長になったのも窪野さんの熱意に動かされたからだ。つながりが大きくなれば、自然に応援してくれる人が増えてくる」と今里会長はまちの人たちの参加に期待を寄せた。

#### 問い合わせ先

八尾スローアートショー 2015 実行委員会  
事務局 窪野

TEL : 076-454-3112 (八尾総合行政センター 総務振興課)

「格子戸とスローアート展」  
(10/31 まで数納邸で開催中)

今年度は、(一社)北陸地域づくり協会主催の「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業として実施しています。

## 100%、西会津産「ベジメルバーガー」(福島県西会津町)

道の駅「にしあいづ」に、100%、西会津町産のご当地バーガーがある。  
ミネラル野菜、米粉と車麩という素材のヘルシーさと揚げた麩の食感が好評で  
老若男女を問わず愛されている。



肉の代わりに高タンパク、低脂肪の麩が使われている「ベジメルバーガー」は宗教上の問題がなく、留学生にも人気だ。車麩は、小麦粉とグルテンを棒に巻き付けて焼き、切り分け、乾燥させてつくられる。



炭焼き、3回巻きの技で焼き上げられた車麩



乾燥させるため天井から吊される

### ■健康な体は健康な食べ物から

福島県西会津町は、「健康がいちばん!」をキャッチフレーズに、健康な町づくりを進めている。

その一環として、「健康な体は健康な食べ物から」、「健康な食べ物はミネラルを含んだ健康な土から生まれる」という考えに基づき、1998(平成10)年から健康な土づくり活動に取り組んでいる。土壌を診断し、過剰な肥料は控え、足りないミネラル分を補い土壌を改善する。当初、健康な土壌に改善されるには2年かかると言われていたが、1年余りで基準を達成し、ミネラル分をバランスよく含んだ土壌で、「ミネラル野菜」、「ミネラル米」がつくられるようになった。

2004年、道の駅「にしあいづ」の交流物産館「よりっせ」の開設を契機に、ミネラル野菜は「百歳への挑戦ミネラルっ娘」と商標登録し販売されることになった。



元気な土からの恵みを受け栽培された「にしあいづ健康ミネラル野菜」

### ■地産地消の特産品づくり

「よりっせ」の中にある「ふるさと薬膳レストラン櫛」は、町の支援を受け、西会津町で採れる食材、地域に伝わる郷土食と薬膳の理論を融合させたメニューを開発し提供したいという女性企業家活動支援事業で学んだ人たちが中心になりつくられた。

代表の斎藤フミ子さんは、「ミネラル野菜づくり」に取り組むうちに、改めて食の大切さを感じ、食材への関心が高まった。かつて母親からしてもらったように、今度は自分が町の食材を使い、安心して喜んで食べてもらえる料理をつくりたいとこの事業に参加したという。

2009年、「地元の食材を使った特産品をつくりたいので相談にのってほしい」と斎藤さんに会津大学の学生から企画が持ち込まれた。大山まつりで忙しい6月だったこともあり、あまり乗る気がしなかったという。しかし何度も斎藤さんを訪ね、歴史や産業を調べ考えた案を熱心に説明する学生たちの姿に心を動かされ、協力することになった。

## ■西会津の食と人が奏でるハーモニー

学生たちは、ミネラル野菜と会津地鶏を使ったメニューをいくつか考えていた。地鶏とはいえ食用として販売されるようになったのは平成に入ってからだ。斎藤さんは違和感を覚え、「西会津では昔から車麩が煮しめなどで肉の代用品として使われている、麩カツバーガーにしよう」と提案し、「ベジメルバーガー」が誕生した。

名前は学生たちが考え、「ベジタブル」を「愛<sup>め</sup>でる」の意味を込めつけられた。

揚げた車麩とミネラルをたっぷり含んだ新鮮な野菜をふわっ・もっちり米粉バンズではさんだバーガーは、口にいれると、バンズ、レタス、タマネギ、きゅうり、トマト、麩カツの味が、すりごまが隠し味の特性ソースで絶妙にからみ一体となり、やさしい甘味が広がる。恐らく最初の一言は、「おいしい!」、「うまい」の他は誰も思い浮かばないだろう。



斎藤フミ子さん（レストラン櫛にて）

「そう、全部のおいしさが一つになるからおいしいの。ミネラル野菜栽培の農家さん、学生さん、車麩をつくっている丸十さん、櫛のみんなの想いがいっしょになっているの。一人ではこのバーガーは生まれなかった」と微笑む。会津大学の学生たちとは今も学園祭をはじめ、イベントがあれば連絡を取り協力しあっている。

「よりっせ」で試験的に販売され爆発的な人気を博し、まず土・日限定で販売されるようになった。車麩は全ての工程が手作業で行われているため販売数は限られ、今年度から毎日販

売されることになったが、平日は20～30個、土日が40～50個ほどの限定販売だという。

## ■麩カツで復活

ベジメルバーガーの販売で「麩カツ」のおいしさが広まり、「麩カツ丼」が登場した。東日本大震災からの復興に取り組む東北で、麩カツに「復活」の願いも重なり、売上げも好調だ。

車麩を製造している(有)丸十製麩本舗の代表、田崎充さんは、「冬の貴重なタンパク源として麩料理は欠かせない一品だったが、水に戻して調理しなければならないというひと手間が敬遠されているのが残念だ」という。

「ひと手間かけた愛情のこもった食事の提供」を心がけている斎藤さんは、ふわっふわっのバンズで取得した技術を活かし、米粉パンのイートインベーカーリーをオープンすることになった。小麦アレルギーの子が笑顔で帰る姿を見るのを楽しみにしている。

いくつもの「ひと手間」をはさんだベジメルバーガーは、おいしいだけでなく、西会津町の産業振興、麩料理の復活、東北の復興を応援するために、何度も食べに行きたくなるご当地バーガーだった。

### 取材協力

#### ふるさと薬膳 レストラン櫛

福島県耶麻郡西会津町野沢字下條乙 1969-26  
道の駅「にしあいづ」内  
TEL：0241-48-1512



ベジメルバーガーは  
300円(税込)

#### (有)丸十製麩本舗

福島県耶麻郡西会津町  
野沢字原町乙 2161-2  
TEL：0241-45-3428



## 伝 言 板

(一社)北陸地域づくり協会が主催、共催、後援等で行う一般参加型事業です。  
お時間をみつけ、ぜひお立寄りください。

イベント名	期 日	開催地・会場	内 容	問合せ先
高岡クラフト 市場街	10月1日(木) ～10月5日(月)	富山県高岡市中 心市街地「御旅 屋通・山町筋・金 屋町」など	作品展示とショップ、工場見学 &ものづくりワークショップ、 食とクラフトのコラボ など	高岡クラフト市場 街事務局 (CREP4) TEL & FAX: 0766-54-6210
信濃川大河津分水 写真コンテスト	応募締切 10月14日(水)	長岡市	母なる大地越後平野に恵みをも たらす信濃川を題材に川と 人の関わり、暮らしをテーマ とした写真を募集 ※ジュニア部門が新設されました。 【審査発表】11月初旬 【表彰式】12月初旬	北陸地方整備局 信濃川河川事務所 総務課 TEL:0258-32-3020
みて、ふれて、知る 新技術・新工法 けんせつフェア 北陸 in 金沢 2015	10月16日(金) 10月17日(土)	金沢市 石川県産業 展示館(4号館)	最新の建設技術を展示・公開 【基調講演】講師：森川あやこ 【けんせつ小町座談会】 【パネルディスカッション】	北陸技術事務所 TEL:025-231-1281 新潟港湾空港技術 調査事務所 TEL:025-222-6115
第22回 大里峠越交流会	10月17日(土)	新潟・山形県を 結ぶ旧越後米沢 街道十三峠の一 つ「大里峠」	旧街道を歩き往時を偲び、周 辺の豊かな自然環境や歴史と ふれあう。大里鍋を囲んでの 交流会	小国町 地域整備課 TEL:0238-62-2431
防災講演会 一大野宏之氏を 迎えてー	10月26日(月) 15:15～17:00	新潟市 新潟東映ホテル	演題：「土砂災害の防災・減災 を目指して」	(一社)北陸地域 づくり協会 企画部 TEL:025-381-1160 FAX:025-383-1205
平成27年度 建設分野の新技術 ・新工法の報告会 「建設技術報告会」	11月18日(水) 9:30～16:20	新潟市 朱鷺メッセ	【基調講演】9:40～10:40 演題：「防災技術への期待 ～環日本海防災拠点構想～」 講師：田村 圭子(新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授)	北陸地方建設事業 推進協議会 平成27年度「建設技 術報告会」実行委員 会(北陸技術事務所) TEL:025-231-1281 FAX:025-231-1283

### 編 集 後 記

「平成27年9月関東・東北豪雨」の解説で、何度も「線状降水帯」、「越水破堤」という言葉を耳にした。これまで専門家間で使われていた用語だという。

今号特別企画に、「仮に大河津分水路の右岸堤防が破堤した場合には、はん濫水が新潟市街地まで及ぶ甚大な被害の発生が想定される」とあり、想定はん濫区域図に「越水破堤想定地点」が示されていた。

シルバーウィークには、大勢のボランティアが被災者の手伝いに全国から集まってきた。災害時の通信手段も、SNSが使われるようになり、災害を取り巻く環境も大きく変化している。

大河津分水路の改修が終わるのは平成44年度の予定だ。50年に一度の大雨が降った時には、どうしたらよいのか、もう一度、行政だけでなく、一人ひとり見直し、備えておかなければいけないと感じた。  
(事務局)

### 地域づくり in ほくりく 第8号

発 行 平成27年10月1日  
編 集 一般社団法人 北陸地域づくり協会  
〒950-0197  
新潟市江南区亀田工業団地二丁目3番4号  
電 話 (025)381-1160  
FAX (025)383-1205  
HP: <http://www2.hokurikutei.or.jp>